



如意ヶ丘

《発行》平成24年12月21日

日本一に輝く



第14回日本ジュニア全管打楽器コンクール
高校生コース ユーフォニウム部門 金賞 彼谷江李さん

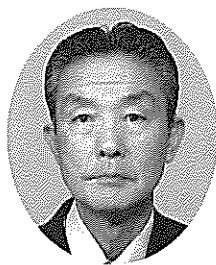


府丘越中万葉パビリオン 開設



韓国・中国友好校歓迎式(中国のステージ発表)

ごあいさつ



会長
牧 亨

今年の夏は連日厳しい猛暑続きでしたが、10月下旬から急速に朝晩の冷え込みが厳しくなり、北陸では雪吊り・雪囲いなどの冬支度の季節を迎えました。

会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶びを申し上げます。

昨年の11月末に野球部が夏の大会に続いて、秋の大会における大活躍が認められ、今春の選抜大会『21世紀枠』の県推薦校に選ばれたビッグニュースは記憶に新しいところです。さらに今年3月30日に東京で開催された第14回日本ジュニア全管打楽器コンクールのユーフォニウム部門で、吹奏楽部2年生の彼谷江李さんが県初となる金賞を受賞されました。部員数4名にもめげず日々黙々と努力された結果に敬意を表します。

これらの快挙は、生徒への励みになると同時に、私ども同窓会にとっても誇りであり、今後大いに期待するものです。

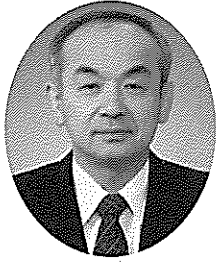
もう一つ特記することは、3月に実施された全日制の一般入試の受験倍率において、当校は1.51倍の高倍率の狭き門となりました。このことは我が校が国際交流科設置校としての実績が認められた証であり、校長先生をはじめ教職員のご努力の賜物と思います。今後は更に語学力を高め、生徒全員のレベルアップが期待されます。

伏木富山港が昨年国交省から拠点港に選定され、富山県および高岡市では大型外航クルーズ客船の誘致に力を注いでいます。今年は35,000トンと75,000トン級の大型客船が伏木港万葉埠頭に寄港しました。歓迎式典では本校生徒代表が英語で乗船客に歓迎の挨拶と地元のPRをしました。来年からも更に大型客船の寄港が増えることが予定されていることから、語学力を生かした本校生徒の関わる機会が増すものと思われ今後が楽しみです。

日本経済も大変厳しい局面を迎えておりますが、会員の皆様には今後も本校の発展にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、皆様にはご健勝にて新年を迎えられます様ご祈念申し上げます。

越中万葉の地にある学校



校長
宮崎 豊

日本最古の歌集「万葉集」の編者である大伴家持が、奈良時代に越中国司として勤務したのは、現在の勝興寺のある場所、住んだのは伏木気象資料館の辺りと言われていました。家持が越中国司として赴任してきた746年(天平18年)から、越中を離れる751年(天平勝宝3年)までの5年間に、この地で詠んだ歌223首に越中にかかわって歌われた歌を加えた337首が越中万葉で、その数は実に万葉集の約7%を占めています。

越中万葉についての参考資料を読んでいると、全国に5000校ほどの高等学校がありますが、伏木高校ほど家持や越中万葉と関係が深く文化と歴史に溢れる地に建つ学校はないと実感します。

高岡市万葉歴史館の新規事業「越中万葉パビリオン」出前講座の第一目を昨年の本校府丘祭で開催していただきました。そこでの展示パネルなどを郷土文学・日本文化学習や、海外の友好校などからの来校者に伏木地域が誇る文化や歴史を広く知ってもらうために常設展示したいと考えました。坂本信幸館長に制作の協力をお願いしたところ快諾をいただき、専門職員の皆様のご指導・ご助言で、伏木地域と関係の深い万葉の歌ばかりを集めた、

「春」「夏」「秋・冬」「洪谿(=雨晴海岸)」のオリジナルパネルや、歌を英語・中国語・韓国語・ロシア語にも翻訳したパネルなどを集めた「府丘越中万葉パビリオン」を校長室前廊下に設置することができました。

その後、万葉歴史館見学とミニ講座受講、文化祭での万葉かるた大会開催などを実施し、越中万葉の学習をさらに深めています。また、10月には高岡市主催の「万葉集全20巻朗唱の会」に生徒25名が初参加しました。さらに、10月中旬には生徒会執行部員が正面玄関前の中庭に、「もののふの 八十娘らが 汲みまがふ 寺井の上のかたかごの花」の歌に因んで堅香子(かたかご)の球根を植えました。女子生徒が球根を植えている姿が、地方新聞に大きく掲載され、その写真が、時代を越えて奈良時代の八十娘らとオーバーラップして見え、たいへん感慨深いものでした。

このように伏木高校では、「府丘越中万葉パビリオン」の完成を機に、いろいろな越中万葉学習に取組み始めました。同窓会の皆様にも是非このパビリオンを一度ご覧いただき、越中万葉に親しんでいただけたらと思います。平日なら、学校の事務室へ声をかけてご覧ください。同窓会を開催され折に多人数でお越しになる場合などには、事前にご連絡いただければ、学校内をご案内させていただきます。気軽にお電話ください。

終わりに、国際交流科である本校の特色を十二分に生かし、さらに魅力あふれる高校にしていきますので、如意ヶ丘同窓会会員の皆様には今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

総会報告

伏木高校如意ヶ丘同窓会

如意ヶ丘同窓会定期総会は、7月14日(土)、16時より伏木福祉会館で開催されました。澤武副会長の進行のもと、同窓会物故者に対して黙祷が捧げられたあと、牧享同窓会長、宮崎校長のあいさつがありました。議事は、議長を兼任した牧会長によって進められ、平成23年度の事業報告、会計報告、監査報告をはじめ、平成24年度の同窓会役員案、事業計画、会計予算等、全ての議案が満場一致で承認されました。

続いて、生徒による韓国での語学研修の報告があり、ホームステイを通してたくましく成長している生徒の様子に、会場から盛大な拍手が送られました。

その後の懇親会は、終始和やかな雰囲気でも進み、伏高第20回卒業で、関東を中心に活動されている歌手 浜 陽子さんによる歌謡ステージが披露され、参加の皆さんの踊りが加わり、一層盛り上がりました。最後には、声高らかに伏木商業学校、伏木高校校歌を歌い閉会されました。



平成三十四年度 如意ヶ丘同窓会顧問・役員

役職	氏名	回数
顧問	之雄夫 治郎郎	14
	孝幸 和節秀	16
	元 安進 大敏	3
	元 谷田若須 井林崎	8
	元 沢島口井泉 武野口	9
	元 元 安進 大敏	8
	元 元 安進 大敏	9
	元 元 安進 大敏	8
	元 元 安進 大敏	9
	元 元 安進 大敏	8
	元 元 安進 大敏	9
	元 元 安進 大敏	8
	元 元 安進 大敏	9
	元 元 安進 大敏	8
	元 元 安進 大敏	9
役員	山崎 黒下原	16
	元 谷田若須 井林崎	10
	元 沢島口井泉 武野口	11
	元 元 安進 大敏	12
	元 元 安進 大敏	13
	元 元 安進 大敏	14
	元 元 安進 大敏	15
	元 元 安進 大敏	16
	元 元 安進 大敏	17
	元 元 安進 大敏	18
	元 元 安進 大敏	19
	元 元 安進 大敏	20
	元 元 安進 大敏	21
	元 元 安進 大敏	22
	元 元 安進 大敏	23
元 元 安進 大敏	24	
元 元 安進 大敏	25	

関西支部 便り

事務局長 山岡 巖 (伏高16回卒)

平成24年度総会を9月22日(土・祝日)11時から昨年度開催した大阪なんばの「道頓堀ホテル」に於いて、同窓会本部より牧会長・山下監査役、母校より永井副校長を来賓としてお迎えし、総勢32名の参加で第16回如意ヶ丘同窓会関西支部総会が開催された。

冒頭、全員起立し校友物故者への黙祷が行われた。杉林支部長の開会の挨拶に続き、牧会長からは「郷土伏木富山港が日本海側の総合的拠点港に選定された事、伏木港に外港クルーズ客船が入港するなど伏木の町がおおいに活気づいたこと」、永井副校長からは「後輩達が第2外国語としてロシア語・中国語・韓国語を学びホームステイを経験し、現地の人たちと交流を深めている事、地域のボランティア活動に積極的に取り組んでいる事」等のお話を頂き、議事に入った。

杉林支部長を議長に選出して始まり、平成23年度の事業報告・収支報告・監査報告が、山岡事務局長・奥会計・川田副支部長(兼)会計監査から報告と説明があり、続いて24年度の事業計画案・収支予算案が上程され、それぞれ満場一致で可決承認され、平成24年度の如意ヶ丘同窓会関西支部の活動がスタートした。

牧会長より、関西支部への活動助成金が杉林支部長に授与され、一同拍手で謝意を表した。記念撮影の後、母校への誇りを忘れず、会員の拡大・会の発展に尽くすことを決意し総会は終了した。



第16回関東如意ヶ丘同窓会総会

関東如意ヶ丘同窓会、第16回総会が平成24年4月21日(土)正午から、「アルカディア市ヶ谷」に於いて、総勢39名出席のもとで開催されました。

総会は定刻、林副会長の司会進行で行われ、冒頭、酒井会長の挨拶で、会員物故者への冥福と昨年3・11大震災で被災された方々さらにNZ地震で人生を閉ざされた同窓生のご冥福を祈り全員で黙祷を捧げる。挨拶では、多忙な中、総会開催にあたり列席戴いた来賓各位に深い感謝を込めての紹介と、会員への開催に伴う配慮を述べた後、世界情勢に触れ、今年は世界主要国のリーダーの多くが改選され、その内容には最重視し対応すべき重要な年になる等々の言葉がありました。

議事に入り、はじめに山岸事務局長より22・23年度事業報告及び24年度事業計画の説明、北山会計長からの会計報告、岸監査からの監査報告を満場一致で承認され、議事は全て無事終了されました。

来賓挨拶では、東京富山県人会連合会副会長の稲場伸也氏より、酒井会長の日頃の中広い社会見識と緻密なご厚誼を通じて、会の進展を図られての第16回総会開催への祝辞があり、次いで富山県東京事務所所長の竹田達文氏からは北陸新幹線開通予定の朗報、如意ヶ丘同窓会会長の牧亨氏からは、超少子化の波が現実には押寄せる統廃合の実態、母校の部活動で昨年、野球部は県高野連から県21世紀枠推薦校認定の経過から夏の大会への期待を語られ、さらに各部の活躍とその成果について熱い話を戴きました。

来賓締めめの挨拶を、学校長に代わって上京された副校長永井衛氏から、26ページにわたる資料をもとに教育方針に基づく生徒諸君の活動を丁寧に説明、たゆまぬ国際交流活動の意欲的な実態を胸を張っての報告を戴き、列席者一同深い理解を得る機会と成りました。

二部懇親会は金子副会長の司会進行で行われ、はじめに故郷の山「立山」への思いを込めて富山県民に親しく唄われてきた歌、(たてやまの、そらにそびゆる～)朗詠、続いて雅楽曲「越天楽」を深原副会長の尺八伴奏のもと列席者一同で唱和の後、東京富山県人会連合会常務理事・事務局長東豊昭氏の声高らかな発声で乾杯、歓談に入りました。

歓談が進む中、浜副会長(テイチク専属歌手)の持ち歌、立山アルペンルート・大漁唄いこみ等々の美声の名調子に乗り、各会員のカラオケの声自慢を披露されたところで、郷土の「帆柱越し」「越中おわら節」の踊りの輪が広がったあと盛会裏をむかえ、次回のより盛会・母校の発展を祈念し、鶴谷副会長の気合いの入った力強い万歳三唱と、永井副校長からの関東如意ヶ丘同窓会の今後の発展と列席者各位の健勝を祈念しての熱きエール交換を交し、作道常任幹事の閉会挨拶で散会と成りました。



同窓会報告

「再会の感動 第23回卒業生合同同窓会」

加藤 龍次 (伏高23回卒)

寒さが駆け足でやってきた11月初旬、高校に近い「磯はなび」で5クラス合同の同窓会が、幹事10名の熱心なご尽力により行うことができました。

42年の時を経て、51名の方々が忙しい中元氣な顔で集った。昭和46年以来の面々は、今、60年の月日を重ね人生の折り返し点に達して、これから集大成に向かう自信の笑顔でもあります。

三年間で育んだ絆と伏高の誇り・感謝を胸にそれぞれの道を歩み始めた時の234名。今回たいへん悲しく、残念でしたのは、恩師のお二方と同窓生6名の方が無念の物故者となっておられた事です。心からの哀悼の意を捧げました。

また、出席できなかった方々からは、親の介護・娘さんの出産・仕事等、同年代の共有している理由を明かし、幹事さんの労をねぎらう心有る便りが寄せられました。

受付時から、紳士16名、淑女35名の合わす顔は懐かしさ溢れるものとなり、一瞬のうちに心は昔に返り、思い出に花が咲きました。遠く県外からも8名の方が出席されたからなおさらでした。

校歌斉唱、物故者追悼のあと開演となり、スピーチ、カラオケと進む間も42年間の心の風景を瞬時に語ろうとするかの様に、あちこちで笑顔の会話が盛り上がりました。それは万歳の後、席についても続くほどでした。

そんな中、不思議なほど誰だか分からないくらい様変わりしている方もおられ、名札の旧姓だけが証明の方も数人…。まさに年輪のシワ? (失礼)で隠れて、あの時の顔にもう戻らないのか…と、時の長さを感じる場面もありました。

この様にして2次会も盛り上がる同窓会となりました。これが一番嬉しく思っていたのは幹事の10名だったと思います。長い期間の準備・段取りが報われた瞬間でした。幹事のみなさん、お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

再会の感動をかみしめた一日でした。

「懐かしかった演劇部同窓会」

(昭和36年3月卒業～昭和40年3月卒業)

山下 利一 (伏高15回卒)

平成24年11月3日(土)、高岡市内「かたかご」に於いて、何十年ぶり、初めての演劇部同窓会が行われました。

遠くは関東、中京方面からの出席者もあり、急なことで対象範囲を限定せざるを得ず、それでも10名の参加となりました。当時の演じた役や出演者のことなどに話が盛り上がり、時間のたつのも忘れて語り合いました。

今回は対象範囲を拡げて企画することを確認し、再開を楽しみに散会いたしました。



特別寄稿

『三十本の桜』 坂田 春美

皆様は、伏木高校正門の左右に広がる桜をご存じですか？
あの桜は、私の弟と母の想い出の桜です。

37年前、弟の俊彦は商業科1年に在籍し、ブラスバンド部でホルン(金管楽器の大きなもの)を吹いていました。

夏休み、友人と遊んでいて、ちょっとした事故にあいました。なぜそうなったか聞いたことがあります。“そうしないと友人が危険な目にあったからだと答えました。『バカだ。』と思いましたがそれが弟です。事故が元で氷見市民病院に行ったときは、もう手遅れと言われました。『急性骨髄性白血病』当時、山口百恵さん主演のテレビドラマで、よく耳にした不治の病です。同じ17歳。同じ病名。見るのがとても辛かったのを思い出します。

10月、金沢大学医学部付属病院へ転院しました。たくさんの方々に輸血をして頂きました。学校関係者の方々もいらっしゃいました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

私は金沢のデパートの寮にいたので、母からの『危ない』という連絡を受け、バスタオル片手にタクシーで、何度も病院に行きました。お風呂あがり髪は濡れたままでした。車の窓をあけ、風で乾かしながら30分、野々市から急ぎました。いつも、なぜかお風呂あがりの時間だったのを思い出します。

発症から1年。翌年7月22日、午後7時55分。弟は帰らぬ人となりました。

痛がった原因究明の為、解剖も行いました。体中、こぶだらけだったと聞いております。

私はその後、『俊彦がお世話になったお礼と記念に、30本の桜を、業者さんと植えてきた。』と、母に聞いていました。しか

し、時々気にしながら、全然見に来る機会がなく、忘れていました。

去年、年老いた母に、母の植えた桜を見せたくて、高校へ連絡し伺いましたが、葉桜でした。でも樹は30数年の年輪が感じられ、写真を撮り、母に見せることができました。本物を見せられなかったのが悔やまれます。もっと早く。

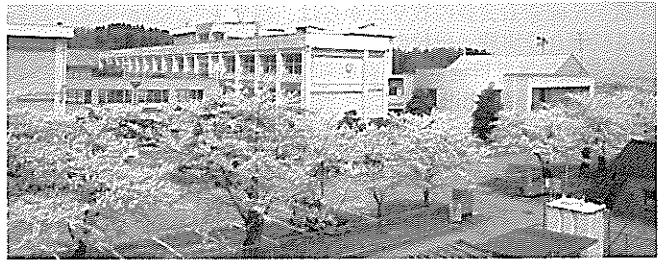
今年、1月16日、85歳で母は亡くなりました。

4月、久々の朝日山公園の花見。帰り道寄ると、今は盛りの満開です。弟と母の魂が宿ってるような不思議な気持ちになりました。とても見事でした。家族も感動です。

教頭先生、山下さんに“入学式に咲くのを、毎年楽しみにしている。”と言われ、とても誇らしく、嬉しかったです。

こんなきれいな桜になるまで、たくさんの人の手が、心が37年育てて下さったこと、とても感謝し、そろそろ筆をおきます。ありがとうございます。

又、皆様でこの桜を眺めてやって下さいますか？弟も母もとても喜ぶと思います。感謝。



ゴルフ大会報告

第26回 如意ヶ丘グリーン会 参加者76名

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位	12位	13位	14位	15位	B
	澤武	老山	中山	山田	川端	松長	浅野	増井	浄土	岩谷	安藤	高井	波田			
	博邦	明儀	勝榮	桑雄	博之	永一	井修	井一	文夫	武信	誠一	弘夫	秀勝			
	(伏高 26回)	(伏高 23回)	(伏高 15回)	(旧職員)	(伏高 13回)	(伏高 8回)	(伏高 51回)	(伏高 22回)	(伏高 4回)	(伏高 10回)	(伏高 10回)	(伏高 20回)	(伏高 30回)	(伏高 13回)	(伏高 12回)	(北高 9回)

第24回 富山県高校OB対抗ゴルフ大会

期日 平成24年6月3日(日)
場所 高岡カントリー倶楽部

母校の名譽をかけ、熱戦が繰り広げられ、
我校は参加28校中、5位と健闘しました。

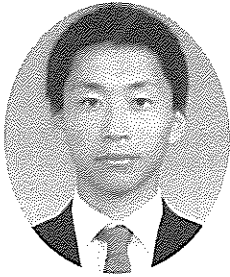
〈出場者〉

細川	信雄	(伏高 15回)
柳澤	昌文	(伏高 25回)
増井	修	(伏高 22回)
城口	賢	(伏高 30回)
澤武	博	(伏高 26回)
舘	良成	(伏高 32回)
川端	博之	(伏高 13回)
桶谷	実行	(伏高 20回)

三北 回 卒 高 代 表 山 下 和 夫	三北 回 卒 高 代 表 富山大学名誉教授 吉 原 節 夫	八北 回 卒 高 代 表 伏木海陸運送(株) 林 秀 治	八北 回 卒 高 代 表 松長一雄 松長事務所	九北 回 卒 高 代 表 東光産業(株) 布 野 彰 一	十伏 回 卒 高 代 表 日光商事 戸 澤 克 行	十伏 回 卒 高 代 表 社会福祉法人 牧 野 貞 夫	十伏 回 卒 高 代 表 ウエノ 上 野 宏 芳	十五伏 回 卒 高 代 表 フシキ住設 中 山 勝 儀	十五伏 回 卒 高 代 表 静富茶園 山 下 利 一	十六伏 回 卒 高 代 表 東光運輸(株) 牧 亨	十七伏 回 卒 高 代 表 神島リビング 神 島 高 志
----------------------------	--	---------------------------------------	----------------------------------	---------------------------------------	------------------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	---------------------------------------

同窓生寄稿欄

「教育実習を終えて」西村太郎 (伏高61回卒)



私は5月28日から6月15日までの3週間、母校である伏木高校で教育実習をさせていただきました。高校在学中に教員になりたいと思ったときから母校である伏木高校での実習を望んでいました。

母校での教育実習を終えて私が学んだことは、教えることの難しさです。私の専門は保健体育で、体育と保健の授業を担当させていただきました。

体育では器械運動の授業を行ったのですが、感覚的なことを生徒にわかりやすく伝えるという点がとても難しいと感じました。私は理解していても、こういった言葉で説明したらよいか、どんな練習をすれば生徒がポイントを意識して取り組んでくれるか悩みました。保健では「高齢者のための社会的とりくみ」の授業を行いました。この分野では生徒に興味を持たせることが難しいと感じた分野でした。こういった分野では生徒がより興味を持ってくれるように教える側の工夫が必要だと思いました。このような経験も実際に教育現場に入ってみないとわからないことだと思いました。

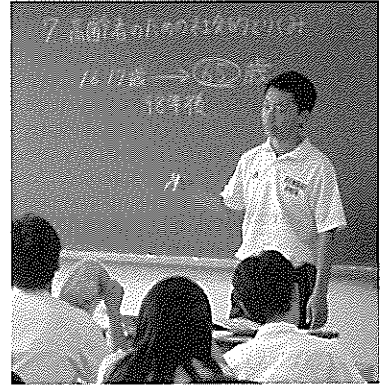
私はサッカー部の強い高校でサッカーがしたいと思い伏木高校に入学しました。入学してからは、学校生活、部活動とも充実した3年間を過ごすことができました。学校生活では学習はもちろん、挨拶、身だしなみなど学習以外でも学ぶことができました。とくに挨拶は意識して行えるよ

うになりました。大学生になった今でもサッカーを続けていて大学のサッカー部に所属していますが、1,2年生の時は先輩やコーチに挨拶を褒められることもありました。それくらい高校3年間で挨拶をする習慣は身につきました。また、3年生のときには主将を務めることができ、責任感やチームをまとめる難しさを経験することができました。さらに主将を務めたことで、それまでとは違った視点でチームを見ることができ、自分自身も成長できました。

教育実習中、部活動にたくさん参加させていただき、部活動に励む生徒を見てると懐かしいと思う気持ちと、もうここに戻ることができないという残念な気持ちにもなりました。だからこそ、今高校生活を送っている生徒たちには悔いのない高校生活を送ってほしいと思いました。

伏木高校を卒業して、今回は教育実習生として伏木高校に戻ってきましたが、新しい出会いや、私が生徒だった頃の先生、生徒達との出会いなど素晴らしい経験させていただけたと改めて感じることができました。

最後になりましたが、これからの伏木高校の益々のご発展をお祈り申し上げます。



「日本ジュニア全管打楽器コンクールに出場して」彼谷 江李 (3年)



私が日本ジュニア全管打楽器コンクールに出場したいと思ったのは、顧問の先生に「出てみないか？」と勧められたことがきっかけでした。このコンクールは、小・中・高校生が豊かな音楽性や技術の向上を発表するために開催されているものですが、すぐには出場は出来ません。まず演奏した曲を録音して予選審査会に提出し、予選を通過

できた人だけが本選考会に出場することが出来ます。私はなんとか通過することが出来ました。本選に向けての練習は思い通りにはいきませんでした。演奏した曲はテンポが急に変化する場面が何度も繰り返され、表現するのが難しく、上手く吹けずに苦しみました。また、曲の表現の解釈が先生と

食い違っただ対立したり、さらには中国語学研修で一週間練習できない時期もあったりして、決して順調ではありませんでした。そのため、とても辛く、練習することが嫌になったこともありましたが、仲の良い友達や家族、そして職員の先生方が応援して下さったおかげで、コンクールでは実力を発揮し、良い成績を取ることができました。

ただ、正直私は金賞を受賞できたことよりも、中学の頃からの夢であった、「一人で舞台上立って、思いのままに私だけにしか奏でることの出来ない楽器の音色をホールに響かせる」ことができたことが一番嬉しかったし、何より楽しかったです。本番直前の舞台裏では緊張して頭の中が真っ白になりましたが、隣で先生がさりげなく背中を叩いて下さり、とても気持ちが楽になり、舞台上立ったときには完璧な音楽を演奏するのではなく、聴いて下さる方々に音楽の素晴らしさを届けたいという思いで演奏しました。

今では部活動を引退し、楽器や音楽にふれ合う機会はあまりありませんが、大人になったら一般の吹奏楽団の一員になりたいと思っています。そして、今よりもさらに楽器の音や技術面を磨きたいです。

十七回卒 高専 事務局長 中島貞之	十八回卒 高専 代表取締役 山口正志	二十六回卒 高専 代表取締役 小泉哲二	二十六回卒 高専 伏木支店 支店長 澤武博	二十七回卒 高専 代表取締役 井上人士也	二十七回卒 高専 取締役 島田工業(株) 島田博司	三十四回卒 高専 代表取締役専務 松島工業(株) 松嶋浩二	三十四回卒 高専 代表取締役 数田昭久	三十七回卒 高専 代表 スミエ工業企画 条谷正利	四十回卒 高専 代表取締役社長 宮越工芸(株) 宮越一郎
-----------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	---	---	-------------------------------------	--	--



～平成23年度 進路状況～

進路指導部長 高澤 真穂美

国際交流科の第5期生の進路状況については、国公立大5名、私立大48名、私立短大24名、専門学校45名、就職5名となっています。

これまでの国公立大学合格者は1期生9名、2期生4名、3期生4名、4期生11名。

国公立の内訳5名は、富山大学経済学部、富山県立大学工学部、信州大学電気電子工学部、新潟県立大学国際学部中国語。

私立大学合格者数は昨年の36名から48名への増でした。進路先地域別動向については、大学短大進学者63名のうち県内進学者が21名(33%)、石川県17名(27%)、関東方面7名、中部地区9名、関西方面6名となっています。また、専門学校進学者の75%(昨年50%)が県内となっており、地元志向がいっそう強くなっています。

就職については、少し上向いてはいるものの依然として厳しいものがあります。

今年度の大学入試センター試験志願者は66名が出願しており、今後の成果に期待をしているところです。

同窓会の皆さまには、本校生徒の進路実現のために、今後一層のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

平成23年度 大学等進路状況 (延べ数)

進路先	合格者数	学校名・企業名等
国公立大学	5	富山・富山県立2・信州・新潟県立
私立大学	48	拓殖・大東文化・帝京・大正・愛知学院・名古屋学院・岐阜経済・岐阜聖徳学園・関西外国語・東海学園・京都外国語・京都産業・富山国際・高岡法科・北陸・金城・金沢学院・金沢星稜・金沢工業 など
短期大学	24	富山・富山福祉・金沢学院・北陸学院・金城・帝京平成看護 など
専門学校	45	富山県立保育・高岡市立看護・高岡市医師会看護・厚生連高岡看護・富山赤十字看護・富山病院付属看護・富山医療福祉・富山市外国語・富山理容美容・石川理容美容 など
就職	5	高岡市農業協同組合・磐城産業(株)・JFEマテリアル・(株)氷見砂型・(株)小谷製作所

部活動報告

◆◆◆ 平成24年度 部活動の記録 ◆◆◆ (平成24年3月～11月)

〈吹奏楽部〉

第14回日本ジュニア全管打楽器コンクール
高校生コース ユーフォニアム部門 金賞 彼谷 江李(3年)
第40回富山県吹奏楽コンクール
高等学校B部門 銀賞 伏木高校

〈体操部〉

富山県高等学校春季大会 体操競技
女子個人総合 第2位 松田 奈々(3年)

富山県高等学校総合体育大会 体操競技
女子個人総合 第2位 松田 奈々(3年)

平成24年度富山県ジュニア体操選手権大会
男子Aクラス あん馬 第2位 原 佑樹(1年)

高岡市民体育大会
女子個人総合 第1位 松田 奈々(3年)
男子個人総合 第1位 原 佑樹(1年)
第2位 飯山 裕太(3年)

富山県高等学校新人大会体操競技
男子個人総合 第1位 原 佑樹(1年)

〈琴部〉

第23回富山県高等学校日本音楽演奏会
日本音楽部門 最優秀賞 伏木高校
(平成25年度全国高等学校総合文化祭長崎大会へ出場)

〈英会話同好会〉

第32回高校生英語弁論大会
全国国際教育研究協議会会長賞 原 万君子(3年)

〈書道部〉

第37回富山県青少年美術展 書部門 入選 門島 涼菜(2年)
入選 石黒 菜夕(2年)
第11回岐阜女子大学 全国書道展 特賞 門島 涼菜(2年)
特選 石黒 菜夕(2年)
特選 松本 唯(1年)
特選 中瀬 未来(1年)

〈第61回学生ユネスコ弁論大会〉

高等学校の部 2位 原 万君子(3年)

〈第59回国際理解・国際協力のための〉

高校生の主張コンクール 富山県大会 優秀賞 鈴木 馨元(1年)
佳作 谷内美奈子(1年)

〈第2回富山県英語ディベート大会〉

ベストディベーター賞 原 万君子(3年)

〈第30回全日本中国語スピーチコンテスト富山県大会〉

朗読の部 第1位 羽廣 葉(2年)
朗読の部 第2位 石黒 菜夕(2年)
朗読の部 第3位 大熊バトリア(2年)
スピーチ 高校生の部 第2位 柿谷 将星(3年)

〈ロシア語スピーチコンテスト富山県大会〉

特別賞 渡辺バルバラ(2年)

INFORMATION

- ①寄稿の件 本会報に掲載する原稿を募集致します。(学生時代の記憶に残る体験、経験談、思い出話等)皆様のご協力を頂き、より充実した紙面を目指していきたいと思っております。なお、原稿は1,000字以内でお願いします。
- ②会報広告の件 会報広告を募ります。皆様方のご協力をお願いします。
- ③如意ヶ丘グリーン会参加者募集 毎年4月第2土曜日
- ④学校のホームページと同窓会のメールアドレスです。ご利用下さい。
ホームページ <http://www.tym.ed.jp/sc354/> メールアドレス dousoukai@fushiki-h.tym.ed.jp
- ⑤来年度の定期総会を平成25年7月13日(出)に予定しています。
- ⑥同窓会の総会等が伏木高校のHP上にてアップしています。是非ご覧下さい。

受付窓口 富山県立伏木高等学校 事務局TEL0766-44-1514 FAX0766-44-1707

編集後記

ここに会報第18号をお届けします。
本号では在校生の活躍や、OBゴルフ大会でのご活躍の様子などをお知らせすることができました。掲載記事への情報提供や寄稿いただきました皆様にお礼申し上げます。また、特別寄稿をいただいた坂田様には貴重なお話と手記をいただき、感謝しお礼申し上げます。
学校では、万葉の歴史に触れる機会を持つべく万葉歴史パビリオンが開設され、高岡万葉朗唱の会へ参加したり、前庭にはかたかこの球根が植えられたりしました。これら学校や同窓会活動への、日頃の皆様のご支援やご協力に対し、この場をお借りして、心から感謝申し上げますと共に、今後とも変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

発行責任者 山下 利一